

17	刈谷	刈谷市立小高原小学校	フカヤ クミコ
			名前 深谷 久美子
分科会番号	19	分科会名	読書・学校図書館

## 「人とかかわりながら読書の楽しさを味わう図書館まつりの取組について」

### 1 はじめに

本校は、刈谷市内の中心部に位置し、全校児童 491 名、学級数 23 の中規模の学校である。家庭や地域が協力的で、穏やかで落ち着いた雰囲気のある学校で、「日本一あたたかい学校」を目指している。

本校の図書館は、北舎 1 階に位置し、蔵書数はおよそ 15,000 冊である。毎週金曜日は学校司書が来ており、図書館の環境づくりや図書館指導にあたっている。

図書委員会を中心に、1 年に 3 回、学期ごとに図書館まつりを行っている。電子書籍の普及により、更に読書が個人的な活動になりつつあるが、図書館まつりに「ペアの読み聞かせ」「先生たちによる読み聞かせ」「親子読書」「グループ図書ビンゴ」などの人と関わりながら読書の楽しさを味わえるような活動を取り入れることで、進んで読書をしたり積極的に図書館を利用したりする子が増えるだろうと考え、本実践に取り組むことにした。

### 2 実践と考察

#### (1) ペアの読み聞かせ

本校は、児童会を中心にペア活動に力を入れている。4 月の初めに、1 年生と 6 年生、2 年生と 4 年生、3 年生と 5 年生でペアを作り、1 年間を通してさまざまな活動に取り組んでいる。ペアの読み聞かせは、学期に 1 回、年に 3 回行っている。

まず、1、2 学期は、高学年の児童が低学年の児童に読み聞かせをする。そして、3 学期は、ありがたいの気持ちを込めてお返し読み聞かせとして、低学年の児童が高学年の児童に読み聞かせを行っている。

4 月に、ペアでの顔合わせを行う時に、6 月の「かたつむり読書」に向けて、好きなものやどんなジャンルの本が好きかなど聞き取りを行った。それを基に、学級全体で国語や学級活動の時間に図書館に足を運び、本の選書にあたった。通常は 2 冊までしか借りられないところを、図書館まつりの期間中は、読み聞かせ用の本を 1 冊は借りられるように、合計 3 冊まで借りられる設定にした。また、高



【写真 1】ペアの読み聞かせの様子

学年の読み聞かせをする児童は、読み聞かせに向けて、低学年の児童に対してどのように読み聞かせをしたらいいのかを考えながら練習をした。

当日は、朝の読書タイムの10分間を使って行った。読み聞かせが終わった後には、感想を伝え合ったり、ペアトークをしたりと、次の読み聞かせのための情報収集を行った。

3学期は、ペアの学年同士で相談をした後に、「ありがとう読書」として、発達段階に応じて低学年の児童が高学年の児童にお返し読み聞かせをした。低学年の児童が高学年の児童のために選書をするのはなかなか難しいので、教師は「自分が好きな本でもいいよ。」と言葉をかけた。ある児童は、怖い本とおもしろい本の2冊にしぼり、どちらにしようか選書に困っていた。「先生はどっちがいい？」と教師に聞いてきたため、「先生は怖い本かな。でも迷うなら、2冊持って行って5年生の子に選んでもらったらどうか。」とアドバイスをした。当日、2冊持っていき、5年生の子に選んでもらった。

- ・自分が小さい頃に読んでもらっておもしろかった本を選びました。読み聞かせをしてあげて懐かしい気持ちになりました。（6年女子）
- ・ペアの子に何が好きか聞いてみたら、電車が好きと言っていたので電車の本を選びました。楽しかったと言ってくれて選んでよかったなと思いました。（6年男子）
- ・今まで読んでもらっていたけれど、自分でも上手に読めるようになってきたので、お礼ができてよかったです。（3年女子）
- ・本を選ぶのをどちらにしようか迷ってしまったけど、2冊持って行って5年生の子が怖い本を選んでくれました。5年生の子と一緒に選べてよかったと思いました。（3年女子）

#### 【資料1】ペア読書の感想

兄弟がいる家庭でも、兄弟同士で読み聞かせをする機会はないだろう。このような活動を小学校の6年間に取り入れることで、温かい気持ちを育み、今後の経験として生きてくるだろう。

## (2) 先生たちによる読み聞かせ

1年生は、入学して間もない4、5月は、自分でまだ文字が読めない子も多いので、教師が毎日朝の読書タイムに紙芝居の読み聞かせを行った。道徳教育的な内容も含めて15ほどの紙芝居を用意し、帰りの会の前などの時間があるときにも積極的に行った。子どもたちは、「紙芝居を読むよ」と言うと、さっと静かになって物語の世界へ引き込まれていった。

読書週間の期間中は、先生たちによる読み聞かせを行っている。1学期は、担任の先生による読み聞かせ、2学期は学年の先生による読み聞かせ、3学期は全校の先生による読み聞かせと形態を変えている。学級のおはよう黑板に読み聞かせのことを書いておくと、「何先生がきてくれるのかな。どんな本かな？」とわくわくしながら待つ姿が見られた。読み聞かせをしてくれた本を図書館で見つけると、「〇〇先生が読んでくれた本だ。」と喜んで借りていく姿が見られた。また、ブックトークのように本の



【写真2】先生による読み聞かせの様子

紹介してくれた先生の本は、続きが読みたくて図書館に探しに来る子もいた。

選書にはそれぞれの教師の個性が出ており、読み手の教師が変わることで、児童の選書の幅や読書の幅が広がっていった。

(3) 親子読書

本校の保護者は協力的な方が多いため、2学期の秋の夜長を利用して、宿題として全校の児童に「親子読書」の取組を行っている。どんぐり読書週間の2週間で2回、親子で読み聞かせをする宿題を出して、取り組んでもらうようにした。

用紙には、「本の題名」「選んだ理由」「本を読んだ人」「読んでもらった人」「親子で話し合い」「親子読書をした感想」を書く欄があり、あくまでも本が楽しく読める時間を親子共々大切に、無理のないように進めた。

保護者の感想では、「小さい頃、読み聞かせをしていたことを懐かしく思うと同時に、最近是一緒に本を読む時間をつくっていないなど実感できました」「子どももとても楽しそうで、今後も時間をつくって引き続き親子で読書を楽しんでいきたい」「子どもがすらすら読む姿や感想を言い合えるようになった姿に成長を感じました」などとたくさん書かれていた。児童の感想では、「読書は楽しい」と記述した子もいて、親子共々、読み聞かせのよさを再認識したり、読書のよさに気付いたりとさまざまな効果が得られた。<下記参照>

どんぐり読書「親子読書」 期間：10月30日(月)～11月10日(金)

月日	【本の題名】 選んだ理由	本を読んだ人 読んでもらった人	親子で 話し合い
11月4日	『5分間のサバイバル』 選んだ理由 アイヌがたてこもりながら、 しあわせに暮らしていたから。	ぼく(わたし) おとうさん おかあさん おじいさん おばあさん	した していない
11月10日	『5分間のサバイバル』 選んだ理由 アイヌがたてこもりながら、 しあわせに暮らしていたから。	ぼく(わたし) おとうさん おかあさん おじいさん おばあさん	した していない

親子読書をして、感想などありましたら、お書きください。  
読書は楽しいです!! 二人の時間を大切に本と読んでいくつもりです。

【資料2】児童の感想

どんぐり読書「親子読書」 期間：10月30日(月)～11月10日(金)

月日	【本の題名】 選んだ理由	本を読んだ人 読んでもらった人	親子で 話し合い
11月4日	『恐竜ワグ最後王国編』 選んだ理由 決闘戦でどの恐竜が勝つか、気になるから。	ぼく(わたし) おとうさん おかあさん おじいさん おばあさん	した していない
11月10日	『恐竜ワグ最後王国編』 選んだ理由 決闘戦でどの恐竜が勝つか、気になるから。	ぼく(わたし) おとうさん おかあさん おじいさん おばあさん	した していない

親子読書をして、感想などありましたら、お書きください。  
小さい頃から何度も読み聞かせしていた本ですが、今回の親子読書で「本が面白くておもしろい」と思ってもらえてくれて、成長を感じて嬉しかったです。今までの思い出に感謝しています。これからも親子で読書を楽しみたいと思います。

11月13日(月)までに担任に提出してください。

どんぐり読書「親子読書」 期間：10月30日(月)～11月10日(金)

月日	【本の題名】 選んだ理由	本を読んだ人 読んでもらった人	親子で 話し合い
11月4日	『恐竜ワグ最後王国編』 選んだ理由 決闘戦でどの恐竜が勝つか、気になるから。	ぼく(わたし) おとうさん おかあさん おじいさん おばあさん	した していない
11月10日	『5分間のサバイバル』 選んだ理由 アイヌがたてこもりながら、 しあわせに暮らしていたから。	ぼく(わたし) おとうさん おかあさん おじいさん おばあさん	した していない

親子読書をして、感想などありましたら、お書きください。  
普段、全く本を読まないけれど、宿題だから頑張ると本を読む機会となつてよかった。私自身も、本にあまりふける興味がなかったが、子どもと同じ本を読む機会となった。市の図書館も初めて利用して、子どもも楽しそうだった。

どんぐり読書「親子読書」 期間：10月30日(月)～11月10日(金)

月日	【本の題名】 選んだ理由	本を読んだ人 読んでもらった人	親子で 話し合い
11月4日	『恐竜ワグ最後王国編』 選んだ理由 決闘戦でどの恐竜が勝つか、気になるから。	ぼく(わたし) おとうさん おかあさん おじいさん おばあさん	した していない
11月10日	『5分間のサバイバル』 選んだ理由 アイヌがたてこもりながら、 しあわせに暮らしていたから。	ぼく(わたし) おとうさん おかあさん おじいさん おばあさん	した していない

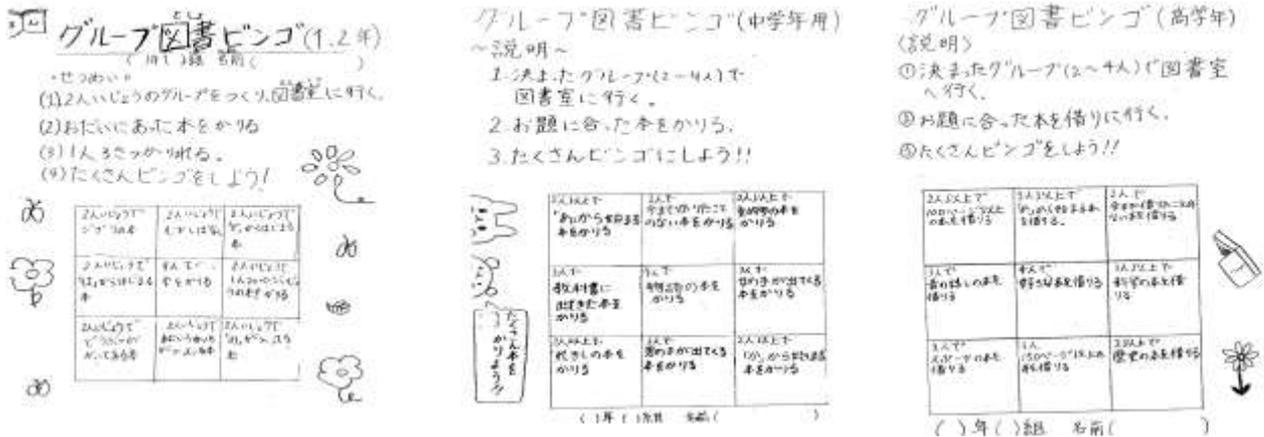
親子読書をして、感想などありましたら、お書きください。  
幼稚園の頃までは夜寝る前によく読み聞かせをしていましたが、小学生になりなかなか時間を取らず、読み聞かせの機会を減らしていたので、良い時間が出来たと思います。おかげでこれからも親子で一緒に本を読む時間を取りたいと思います。

【資料3】保護者の感想

(4) グループ図書ビンゴ

図書館まつりのときには、たくさんの子どもに図書館に足を運んでもらうための企画を図書委員が毎回考えて行っている。今までには、個人で取り組むビンゴ(すごろく、さいころ、分類番号)であったり、読書郵便、分類番号当てゲーム、読書診断、本の紹介カードなどを行ったりしてきた。

しかし、このような活動に参加する子どもは、どうしても本好きな子どもに偏ってしまっていた。そこで、普段は外遊びが好きで放課に図書館に来ない子どもも、友達に誘われたら図書館に行く気持ちになるだろうという考えのもと、グループ図書ビンゴを企画した。用紙は、低・中・高学年用のものを用意し、誘い合って目的の本を探すようにした。<下記参照>



【資料4】グループ図書ビンゴの用紙(低・中・高学年用)

当日は、普段外に遊びに行く子どもも、友達に誘われて図書館に来たり、グループで分類番号の本を楽しそうに探したりする姿が見られ、図書館利用者数も増えた。



【写真3】グループ図書ビンゴの様子

3 実践のまとめ

「日本一あたたかい学校」を目指し、人と関わりながら読書の楽しさを味わえる子どもを育成している。読書をすることで、豊かな情緒や考える力、感じる力を育て、温かい心を育てることは明らかだが、読書活動はどうしても個人的な活動になってしまい、電子書籍の普及により更に個人の楽しみとなっている。子どもたちにとっても、本が好き・本は嫌い、読書に興味がある・読書に興味がないと偏りが出してしまう活動でもある。

そのため、読書はあまり好きではないという子どもに、いかに図書館に足を運んでもらうか、どうしたら本の楽しさを感じられるかを考え、図書館まつりでの取組を行ってきた。人との関わりで感じられる本来の本がもつ温かさに触れることで、本を読んでみたい、図書館に足を運んでみようかなと感じる子どもが増えてきた。特に、本校が10年以上も前から継続して行っている「親子読書」は、小学生の頃でなかなか取り組めない活動であり、今後も継続して行っていきたい。